



天を造り出し、  
これを引き延べ、  
地とその産物を押し広め、  
その上の民に息を与え、  
この上を歩む者に  
霊を授けた創造主は  
こう仰せられる。  
わたし、主は、  
義をもってあなたを召し、  
あなたの手を握り、  
あなたを見守り、  
あなたを民の契約とし、  
あなたを民の契約とし、  
国々の光とする。

一般財団法人 ジェネシスジャパン 2024年4月30日  
ニュースレター 第62号  
〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652-306-3  
電話 029-292-9621 ファックス 03-6862-8340  
メール info@genesishjapan.com ホームページ genesishjapan.com

## 偽りの歴史を 信じる時

というのは、  
彼らが創造主の真理を偽りに変え、造り主よりも  
造られた物を拝み、これに仕えたからである。  
しかし、造り主こそ、  
とこしえにほめたたえられるべきお方である。  
アーメン。

創造主訳聖書 ローマ書 1章25節

ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実

wiki ナイアガラの滝

### 歴史の抹殺とその目的

かつて中国を統一した秦の始皇帝は、歴史書など多くの文献の焚書を行いました。その目的は、為政者に都合の悪い歴史や思想を封印することで、秦の政策を受け入れやすいように思考を統制することにあります。このため、それまで受け継がれてきた秦以前の歴史や教えの多くが失われてしまったのです。その中にはおそらく、バベルから移住して来た人々によってもたらされた、天地創造やノアの洪水などの文献もあったことでしょう。

このように過去の歴史を封印し、異なる歴史や世界観を人々に植え付けることに成功すれば、人々はその植え付けられた世界観に基づいて考え行動するようになってしまいます。

今から約200年前、科学の分野でも歴史が塗り替えられ、それによって主流の科学の考え方も変わってしまったのです。

### チャールズ・ライエルの戦略

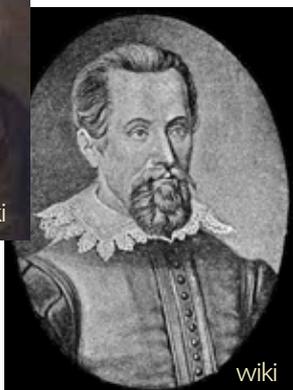
19世紀半ばまで、主流の科学者たち（物理学者/天文学者アイザック・ニュートン、天文学者ヨ

ハネス・ケプラー、物理学者/数学者ブレイズ・パスカル、比較解剖学者ジョルジュ・キュヴィエなどに代表される）は、創世記に記録されている天地創造やノアの洪水などの歴史に基づいて自然を考察していました。たとえば、地球規模のノアの洪水が起こったので、世界中に地層が存在し、その時埋められた生物が化石となったのだと。彼らにとって、自然を理解する上で、創世記の歴史は科学解明に重要な位置を占めていました。すなわち「聖書は過去を解く鍵」だったと言えるでしょう。

しかし現在主流の科学者たち



wiki



wiki



wiki



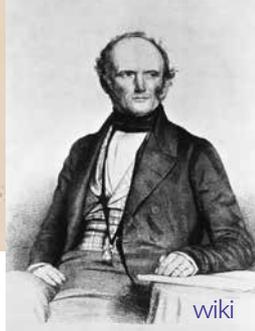
wiki

■創世記の歴史に基づいて自然を理解しようとした科学者たち、上からアイザック・ニュートン、ヨハネス・ケプラー、ブレイズ・パスカル、ジョルジュ・キュヴィエ

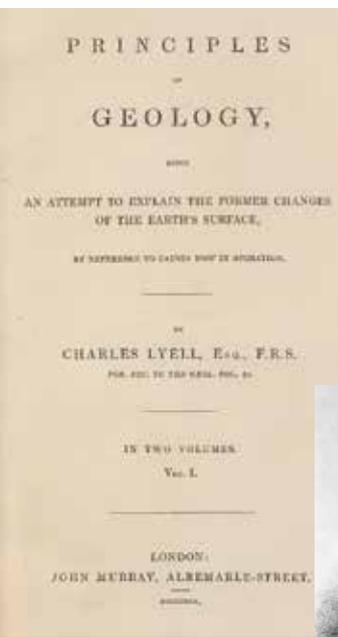
このほかに多くの科学者が聖書の歴史に基づいて自然を研究し、様々な自然法則を発見してきた。彼らにとって聖書の歴史は、真理を説明する土台となった。

現在も多くの科学者が、聖書の歴史を信じて自然の研究に従事している。

■チャールズ・ライエル（下）とライエルは「現在は過去を解く鍵」とし、科学から創世記の天地創造やノアの洪水の歴史を抹殺する目的で地質学原理を著した。



wiki



は、「現在は過去を解く鍵」という視点から、自然を考察するようになりました。これは、法律家で創世記の歴史を嫌っていた地質学者チャールズ・ライエルが普及させた「斉一説」の考え方で、科学から創世記の歴史を抹殺しようと試みた結果なのです。

1788年にジェームズ・ハットンが「斉一説」を提唱して以来、牧師や神学者たちの中に、聖書が間違っているのではないかと不安が広がっていました。そして、斉一説と一見矛盾しないように聖書を再解釈する動きも出始めていたのです。

1804年にはトーマス・チャーマーズが間隙説を、1823年にはジョージ・スタンレー・フェーバーが日＝時代説を主張するなど、斉一説に基づいた聖書解釈を教え始めました。

こうした時代背景の中で、1929年、ライエルはロデリック・マーチソン（ロンドン地質学会創立者の一人）宛の手紙にこう書いています。

「私は、私が描いた地質の変遷を評判にしてみせられると確信している。ジョン・フレミング翁は、私の反モーセ的な結論によって、聖書の年代が成り立たなくなるの

ではないかと考え恐れており、少なくともしばらくの間、この話題は聖職者にとって、不評で奇異に感じるものとなるだろう。しかし私は恐れない。可能な限り懐柔できるようにすべてを行うつもりだ。」<sup>1</sup>

スコットランドの聖職者で博物学者でもあったジョン・フレミングは、動物学や地質学でも名が知られていた人です。この文面から彼は、自分の思い描く地質学を裏付ける科学データを提示することで、聖職者をも説き伏せることができると考えていたことが伺えます。

1830年にライエルは、地質学原理を出版し、そのタイトルページに記された副題を「過去の地表の変遷を、現在起こっている作用で説明する試み」としました。彼は、現在観察できる出来事しか過去に起こらなかったとすることで、必然的に現在の地球が出現するのに何億年もの時が必要だと人々に信じさせることができると考えたのです。

彼はまた、同地質学会のジョージ・スプロウルに宛てた手紙でこう書いています。

「君は、クォーター・レビュー誌に掲載された『科学をモーセか



ら解放する』に興味を持つだろう。なぜなら、これに真剣に取り組むなら、団体(教会)もそれを受け入れる用意ができていたからだ。」<sup>1</sup>

この手紙からは、聖書の歴史を否定する科学を普及させようとする彼の意気込みが伝わってきます。1830-1833年にライエルが『地質学原理』(全3巻)を出版した目的は、科学からモーセが記した創世記の歴史を切り離すことにありました。その戦略は、「斉一説」に基づいて思考することこそ科学的手法で正しく、創世記が示す地球の歴史は誤りだと信じさせることでした。

### ナイアガラ渓谷の調査

ナイアガラ瀑布から北に向かってクインストンまでの約11km(約35,000フィート)にわたって渓谷が続いています。これはそこを流れるナイアガラ川が滝となって流れ落ちる場所が浸食され、時と共に滝の位置が徐々に後退して出現したと考えられます。

1845年、ライエルはこの渓谷が形成されるには、どのくらいの年月を要したかを発表しました。

ライエルは、科学雑誌に掲載された1829年の調査報告を読

み、現地に40年住んでいる人が40年間で45m滝の位置が後退したと証言したことを知っていました。<sup>3</sup>そのことは彼の著書、地質学原理でも触れられています。

この証言が正しいければ、年平均1.125m浸食が進んでいる計算になり、その速度で11km浸食したのなら9,000年余りを要します。当時主流だった創世記に基づく地質学では、天地創造から1万年未満と考えていたので、問題なく受け入れられる数値でした。しかしライエルにとっては到底受け入れられるものではなかったのです。

そこでライエルは、1841年と1842年に現地を訪れ、独自の調査を行い、その結果としてナイアガラ瀑布の1年間の浸食速度は1フィート(約30.5cm)であると結論付けました。そしてこのナイアガラ渓谷ができるのに35,000年を要すると発表したのです。<sup>2</sup>

当時は道路も整備されておらず、現地に行くのも困難だったため、高名な地質学者ライエルの結論は最終的かつ決定的なものとして広く信じられるようになりました。そしてこれを信じた科学者や聖職者達は、思考をコントロールされ、創世記の歴史をそのまま受け入れることは誤りであると考え

るようになったのです。

その後の詳しい調査により、実際の浸食速度は1829年の調査報告の方が正しいことがわかっています。1842年から1927年にかけて行われた調査によると、年間1.2～1.5m浸食されていることが明らかになりました。

1960年代に滝の浸食を食い止める工事が行われて以降、現在では滝の後退速度が年間約3cmに抑えられています。

ライエルは科学的手法を用いて事実とは異なる証拠を信じ込ませ、主流の科学から創世記の歴史を追い出すのに成功したのです。その後、主流の科学では、多かれ少なかれ斉一説に基づいた思考過程に影響され、現在の地球ができるのに億単位の長い期間が必要だと主張し続けています。実際にそれを観察した人も証言できる人もいないにもかかわらずです。

### ナイアガラ渓谷の聖書的考察

では、斉一説ではなく、「聖書は過去を解く鍵」と考えてナイアガラ渓谷の形成を説明するとどうなるでしょう。

ナイアガラ渓谷が広がる地層は、頁岩層けつがんの上を石灰岩層が覆つ



ています。頁岩層は石灰岩層よりも容易に水に浸食されるため、それを覆う石灰岩層が全体の浸食速度を決める要因となっています。

ライエルは、浸食速度を斉一説に基づいて一律としましたが、瀑布の辺りの石灰岩層の厚さは約27mで、そこから約3km下った辺りからクインストンまでの8km区間は、約14mとおよそ半分になります。ですからこの区間の浸食速度は先の調査結果よりも非常に早かったと考えられます。

さらに、溪谷の幅はナイアガラ瀑布の幅の1/4～1/2と狭くなっています。川幅が狭くなれば同じ流量の水がそこを通るため、浸食速度も上がったでしょう。

ノアの洪水後に氷河期があり、ナイアガラ溪谷のある地域も氷河で覆われていたことが氷河地形からわかります。ニューヨーク州には、氷河の浸食で出現したいく筋ものフィンガー湖があります。そのように氷河期終期に氷河が溶けて流れる時の氷岩などで溪谷が急速に削られ、その後現在見られる過程で出現したかもしれません。

もう一つの可能性として、ノアの洪水の時に堆積した頁岩層と石灰岩層は、堆積したばかりの当時はまだ柔らかく、洪水の水の退水と共に、一気にナイアガラ溪谷の大部分を切り開いてしまったかも

しれません。

ただし、実際にその観察記録も証言もないため、どれが正解かを特定することはできません。しかし聖書から、ノアの洪水後約4,400年の間に現在のナイアガラ溪谷が出現したのは間違いありません。氷河期の終わりに浸食されたのなら、約3,800年前から形成され始めたと考えられます。

### 聖書の創造に立つ大切さ

冒頭の聖書のことばにあるように、現代の科学界では真理の歴史に変えて偽りの歴史が信じられています。その結果、創造主の存在と創世記の歴史を否定し、進化論に基づいた科学しか考えられないように思考を制御されてしまいました。そのため、誰も観察できないのに『何100万年』『何億年』という歴史を当然とし、人は動物から進化したと教えるようになったのです。

聖書を信じていても、この偽りの歴史を信じてしまうなら、それに思考を制御され、聖書を否定する方向に引っ張られるのです。聖書は、歴史をすべてご存知の創造主が聖書の著者だと証言しています。ですから私たちは、確信を持って「聖書こそ過去を解く鍵」であると考えようではありませんか。

### 参考文献・引用文献

1. Catchpoole, D., Walker, T. "Charles Lyell's hidden agenda—to free science "from Moses" [Creatioion](https://creation.com/the-hidden-agenda-of-charles-lyell-was-to-free-science-from-moses), 19 August 2009. <<https://creation.com/the-hidden-agenda-of-charles-lyell-was-to-free-science-from-moses>>
2. Pierce, L., "Niagara Falls and the Bible" [Creation](https://creation.com/niagara-falls-and-the-bible) 22(4):8-13, September 2000. <<https://creation.com/niagara-falls-and-the-bible>>
3. Lyell, C., "Principles of Geology", 1859, 9th Edition, p. 217.

## お知らせ

「創造主と共に生きて」

好評発売中

名誉会長  
宇佐神 正海自伝  
全35ページ  
定価 250円+税



## 献金のお願い

国内外に聖書の創造を伝えるため、ご支援をお願いします。

ジェネシスジャパン

ゆうびん振替 00350-7-3364

ゆうちょ銀行 10650-52405611

## 講義・イベント予定

### ■創造を伝える働き人養成講座

日程：7月を予定 調整中

会場：調整中（高知県）

### ■秋の創造セミナー

日程：10月17-19日

会場：ホテルグリーンプラザ白馬（長野県）

## 創造を伝える働き人養成講座

### 【募集要項】

聖書を創造主の言葉と信じる方。

イエス・キリストを救い主と信じる方。

創造を信じる大切さを伝えたいと願う方。

### 講座の目的と概要

- \* 創造主のみわざのすばらしさに感動し、その感動を伝える働き人が起こされる。
- \* 創造論の講演に加え、創造論の背景となる知識や考え方を少人数で学ぶ。
- \* 創造を伝えるために役立つ資料の提供。
- \* 修了証授与（全日程参加者）
- \* 創造論を用いての個人伝道、CSや教会でのメッセージ、講演ができるよう協力。

（参加費等はお問い合わせください）

詳細はジェネシスジャパンまで